



「リハビリテーション知識の整理」

医 歯 薬 出 版 編

日本における PT・OT の資格制度が制定されて以来はや 11 年が経過するが、現在では我々の扱う疾患もさまざまで多分野にわたっている。それに伴って、各疾患に関する情報も、より広く、より深いものが要求されつつある。

このように日々忙しい臨床の中で、治療者として我々が、常に立ち戻るべき基本的事項をコンパクトにまとめたものが著書である。

著書の内容は第 8 回から第 11 回までに出题された国家試験問題を中心に解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法、作業療法、下肢装具・車椅子・手副子・自助具、片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺、整形外科の麻痺、リウマチ、切断・義肢、精神科疾患と 14 章に分類、整理しており、かつ独自の問題を取捨選択したうえ、適当な解説と答を添えたところに、本書の特徴がある。しかしながら、これらの膨大な内容を一冊の著書に網羅すること

は大変難しく、ところどころ説明不足の箇所も見うけられ解説から答に至るまでの過程で読者に誤解を招かねばよいかと案じられるところもあるようだが、なによりもポイントを知るといふ点では有効な著書だと思う。

また学生にとっても本書の意義は大きく、学校で学んだ知識の総復習ができるばかりでなくウィークポイントの発見にも役立つであろう。と同時に国家試験前の参考書、問題集として知識の再確認と整理に役立つ著書でもある。

日常の治療に追われがちな我々が成書を通読することはなかなか困難であるが、本書を指標として再び成書に立ち戻り、より良い治療を目指すべく努力を惜しんではならないと思う。

(医歯薬出版, A5, 334 頁, 〒 3,800, 1977)

(東京医科歯科大学附属病院リハ部, 理学療法士

細田 多穂)

「Brain Mechanisms in Sensory Substitution」

Paul Bach-y-Rita 著

この本は、アメリカ OT 界の学術的リーダーの 1 人、Josephine C. Moore が、OT 必読の書としてすすめたものである。

第 1 章では、著者が仲間と共に開発した盲人の視覚を代償するシステムの紹介がされている。メガネのフレームにとりつけられたテレビカメラのレンズがとらえた物体は、腰につけられたテレビカメラ本体を経て、腹部の受像板にその像が送られる。この受像板は四角い板に小さな電極がびっしりと取り付けられたもので、これを腹部の皮膚に密着させカメラがとらえた像に対応する電極からの電気刺激によって腹部の皮膚にその像が描き出され、盲人がその形を認知する、というしくみになっている。盲人は訓練の後、部屋の中の電話器を認め、それに近付き、使用する、といったことや、黒板に書かれた“A”という文字を指さしたりすることができるようになる。2 章は、皮膚による感覚情報について書かれており、皮膚と網膜の機能的類似性が指摘され、皮膚が触覚

情報のみならず、視覚情報の伝達能力をも示していることから、皮膚受容器及び皮膚から脳への情報伝達に関する文献的考察がなされている。3 章は、皮膚のメカニズムについて、感覚機能の皮質局在が論じられている。4 章は、認知や学習が代償感覚においてどのように起るかが、1 章に紹介されたシステムを使用した研究に触れ乍ら考察されており、認知や学習が起るには、自発的な動作（前述の器械の場合にはテレビカメラを自分で操作すること）が非常に重要であることが、繰り返し述べられている。5 章は中枢神経系の可塑性について、可塑性のもとになる要因について論じている。6 章は、脳損傷や感覚脱失のある患者に関するこれまでの研究的文献的考察がなされ、更に、これと、感覚代償機能との関連を述べている。

(Academic Press, 157 頁, \$ 12.50, 1972)

(清瀬リハビリテーション学院, 作業療法士 宮前 珠子)